

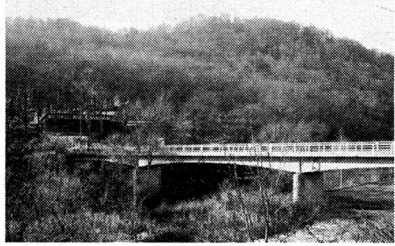
断章 旭川のアイヌ語地名研究

⑫

高橋 基

ノノミシリ (ci-nomi-sir 我の・祭る・山) ルイカ (rukka 橋) 「チノミシリ」へ行くために渡る橋という意味で命名されたもの。
 荒井源次郎翁は、明治三十三年生まれで、平成三年に九十歳で亡くなりました。源次郎翁は、このチノミシリ

写真①は、嵐山の「伝承のコタン」や「北邦野草園」へ行くオサラップ川を渡る橋で、「チノミシリルイカ橋」。この橋名板は、書家(号・古潭)でもあった近文の荒井源次郎エカシ(古老)の揮毫になるものである。橋名は「チ



写真① チノミシリルイカ橋と嵐山

リについて、「近文嵐山」帯は、昔からアイヌはチノミシリ(礼拝所)といつて、上川アイヌの繁栄と健康の守護神など数々の伝説を秘める上川アイヌの聖地であつて、当時のアイヌは祭壇を設け、随時礼拝をしていた」と書いた『続アイヌの叫び』。

また、源次郎翁は、明

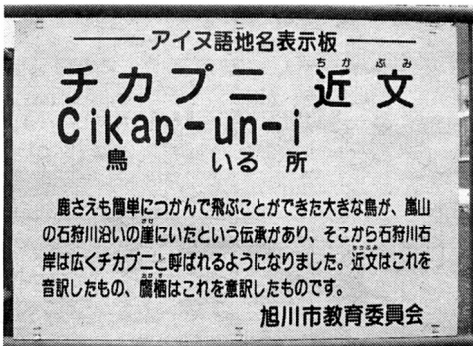
— 近文山はチノミシリ —

巻に掲載されたもの。知里真志保は、翌三十六年に札幌で逝去する。旭川市民には貴重なアイヌ語地名解を残してくれた。荒井源次郎翁は、この知里真志保のアイヌ語地名解の調査に協力された二人で、他に門野ネンクアイヌ、石山アツムヤシク(『アイヌの叫び』による表記)が加わり、知里真志保が調査した、昭和三十三年当時の最高のインフォーマントであつた。

知里地名解では、既述のチカプニ

治十八年に岩村通俊や永山武四郎が発頂、国見をし、翌十九年に上川郡初の碑で「近文山国見の碑」を建てた、嵐山連山近文山は、「この地は昔アイヌたちはインカルシ(展望台)と呼んでいた(同前)」という。インカルシ(inkaru-us-i 物見を・いつもする・所)で、遠軽の地名起源である幌岩、札幌の藻岩山のアイヌ語名のインカルシペも同じ意味である。

これまでも度々引用した、知里真志保の「上川郡アイヌ語地名解」は、昭和三十五年発刊の『旭川市史第四



写真② チカプニ近文のアイヌ語地名表示板

他に、「チノミシリ (ci-nomi-sir: 我ら・祭る・山) 今、近文山。」「チャシコツ (chashi-kot 砦 近文山のこと)」「註一上流側がチャシコツナイで、実在のチャシがあった」と記載。近文山は、荒井源次郎翁の言のように、土地の人が崇拜する山で、チノミシリであつたのである。

写真②は、近文小学校の校門に設置された「チカプニ近文」のアイヌ語地名表示板で、旭川市教育委員会

で設置したものである。「チノミシリルイカ橋」には、「オサルペツオサラップ川」の表示板が設置されている。これらは、アイヌ語地名と現在地名を併記し、あわせて由来を記して、アイヌ語地名を尊重してほしいという意図で作成されたもの。現在、十二カ所に設置されていて、これらは、現地に加え、旭川市のホームページでも見ることができ。

なお、九月二日付で「神楽岡」について、「アイヌ語地名研究十一号」に掲載予定としましたが、ページ数の関係で、十二号掲載となりましたので、ご了承ください。

(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第一週号に掲載します